（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	日本社会事業大学附属　子ども学園			
○保護者評価実施期間	2025年10月31日		～	2025年11月14日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	1	（回答者数）	1
○従業者評価実施期間	2025 年11月25　日		～	2025年12月12日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	2	（回答者数）	2
○訪問先施設評価実施期間	2025年11月25日		～	2025年12月16日
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	1	（回答数）	1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　2月　12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育園がとても協力してくださることで、保育後に振り返りや情報共有がしっかりとでき、保護者への報告やアドバイスの際にも活かすことができている.	保育園にご協力をいただきながら保育後の振り返りや情報共有を丁寧に行うよう意識している。	引き続き、保育園や保護者との情報共有を丁寧に行い、支援に活かしていく。
2	特性等を十分に理解し適切な支援ができるよう、お子さんが本園の児童発達支援を利用していた際の担任が、訪問支援を担当している。	児童発達支援利用時からのお子さんへの支援の手立てを活かしつつ、保育園の中で個に応じた支援が実施できるよう意識している。	お子さんの特性を理解しつつ、お子さんの変化や成長の様子、保育園の環境等も踏まえながら、その時々に応じた支援を行っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問日時の調整が難しいことや訪問回数が限られてしまいがちである。	訪問支援員が児童発達支援の児童指導員も兼務しているため。	保育園、保護者のご協力を得ながら丁寧な連絡調整を心がけ、限られた回数においても有効な支援となるよう努めていく。
2			
3			